

近畿厚生局長 殿

開設者名 学校法人 大阪医科大学
理事長 植木 實 印

大阪医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成24年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数		114 人
--------	--	-------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非 常 勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	479 人	185 人	427.9 人	看護補助者	98 人	診療エックス線技師	0 人
歯科医師	13 人	18 人	14.4 人	理学療法士	27 人	臨床検査技師	64 人
薬剤師	52 人	10 人	59.1 人	作業療法士	8 人	臨床衛生検査技師	0 人
保健師	0 人	0 人	0.0 人	視能訓練士	10 人	その他	0 人
助産師	24 人	4 人	26.0 人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサージ指圧	0 人
看護師	768 人	36 人	797.1 人	臨床工学技士	18 人	医療社会事業従事者	7 人
准看護師	3 人	0 人	3.0 人	栄 養 士	1 人	その他の技術員	11 人
歯科衛生士	2 人	2 人	2.7 人	歯科技工士	1 人	事務職員	142 人
管理栄養士	16 人	2 人	17.9 人	診療放射線技師	44 人	その他の職員	126 人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日 当 たり 平 均 入 院 患 者 数	708.9 人	3.0 人	711.9 人
1 日 当 たり 平 均 外 来 患 者 数	1,889.5 人	95.9 人	1,985.4 人
1 日 当 たり 平 均 調 剤 数	入院 793.4、外来 220.8 合計 1,014.2		剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者数延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	32人	・膿疱性乾癬	2人
・多発性硬化症	40人	・広範脊柱管狭窄症	4人
・重症筋無力症	40人	・原発性胆汁性肝硬変	40人
・全身性エリテマトーデス	134人	・重症急性膵炎	8人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	23人
・再生不良性貧血	23人	・混合性結合組織病	20人
・サルコイドーシス	62人	・原発性免疫不全症候群	5人
・筋萎縮性側索硬化症	21人	・特発性間質性肺炎	12人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	154人	・網膜色素変性症	33人
・特発性血小板減少性紫斑病	25人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	30人	・肺動脈性肺高血圧症	17人
・潰瘍性大腸炎	88人	・神経線維腫症	14人
・大動脈炎症候群	10人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	8人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	22人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	2人
・脊髄小脳変性症	31人	・ライソゾーム病	0人
・クローン病	50人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	9人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	5人
・悪性関節リウマチ	17人	・脊髄性筋萎縮症	2人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	163人	・球脊髄性筋萎縮症	1人
・アミロイドーシス	9人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	27人
・後縦靭帯骨化症	53人	・肥大型心筋症	39人
・ハンチントン病	2人	・拘束型心筋症	1人
・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	0人	・ミトコンドリア病	12人
・ウェゲナー肉芽腫症	16人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	45人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	1人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	7人	・黄色靭帯骨化症	0人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	74人

26

1,092人

23

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

49

344人
1,436人

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・色素性乾皮症の遺伝子診断	・
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・マイクロ波子宮内膜アブレーション	・
・抗がん剤感受性試験(HDRA法又はCD-DST法)	・
・腹腔鏡下肝切除	・
・肝切除における画像支援ナビゲーション	・
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	・
・インプラント義歯	・
・膀胱水圧拡張術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	年間20回程度
剖 検 の 状 況	剖検症例数 26 例 / 剖検率 6.89%

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
日本人1型糖尿病の包括的データベースの構築と臨床研究への展開に関する研究	花房俊昭	糖尿病代謝・内分泌内科	11,400,000	委 国際医療研究開発事業
劇症1型糖尿病の成因解明－制御性T細胞の量的・質的異常とその制御－	花房俊昭 佐野寛行	糖尿病代謝・内分泌内科	800,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
質量イメージングによる関節リウマチ関節滑膜組織の疾患関連分子プロファイル解析	武内徹	膠原病内科	1,500,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
胃食道逆流症に対する内視鏡的噴門部切除の有用性の評価	太田和寛	消化器内科	1,000,000	補 公益財団法人大阪難病研究財団
膵腫瘍性病変に対するEUS/FNA検体におけるK-ras遺伝子解析の有用性	小倉健	消化器内科	1,000,000	補 公益財団法人大阪難病研究財団
進行再発大腸がんに対する化学療法の毒性軽減についての臨床研究	紀貴之	消化器内科	1,000,000	補 公益財団法人大阪難病研究財団
PPARα agonistが高血圧・糖尿病動物モデルの心脂質量・心機能に与える影響の検討	石坂信和	循環器内科	600,000	補 日本学術振興会
新型インフルエンザH1N1の病態把握と重症化の要因の解明に関する研究	浮村聡	総合内科	1,000,000	補 厚生労働省科学研究費補助金
インフルエンザ心筋炎における血管内皮機能障害の意義と治療に関する研究	浮村聡	総合内科	3,200,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
統合失調症と感情障害の中間型に対する疫学調査	康純	精神神経科	1,700,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
うつ病と統合失調症患者におけるm-ECT前後におけるNIRS所見に関する研究	堤淳	精神神経科	1,400,000	補 科学研究費助成事業若手研究(B)
非アルコール性脂肪性肝炎におけるキマーゼの役割	林道廣	消化器外科	1,100,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
in vitro膵発癌モデルの確立と発癌メカニズムの解明	宮本好晴	消化器外科	1,500,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
プロテオーム解析による乳癌の5-FU耐性機能の解明とその応用	木村光誠	一般・乳腺内分泌外科	1,000,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
食道がん手術における口腔ケア介入による術後肺炎予防効果の検討	内山和久	消化器外科	450,000	委 厚生労働省がん研究開発費
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究班	内山和久	消化器外科	400,000	補 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
非治癒因子を有する進行胃癌に対する胃原発巣切除の意義に関する国際共同研究	野村栄治	消化器外科	700,000	補 厚生労働省科学研究補助金がん臨床研究事業
手術手技の最適化による標準治療確立のための多施設共同研究	朝隈光弘	消化器外科	400,000	委 厚生労働省高度医療専門センターがん研究開発費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ラットを用いた肺高血圧に対する新しい薬物治療アプローチ	根本 慎太郎	心臓血管外科	1,000,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
虚血心筋ホーミングペプチドを用いた組織選択的心不全治療法	神吉 佐智子	心臓血管外科	1,200,000	補 科学研究費補助金 研究活動スタート支援
ファージディスプレイ法で同定したホーミングペプチドを用いる心臓虚血域を標的とした新規治療法の開発	神吉 佐智子	心臓血管外科	2,000,000	補 公益信託循環器学研究振興基金
一酸化窒素合成酵素を過剰に発現させた骨髄間質細胞による肺高血圧症治療	神吉 佐智子	心臓血管外科	500,000	補 鈎奨学基金研究助成金
初発膠芽腫に対する新規放射線化学療法による有効治療法確立のための臨床研究	宮武 伸一	脳神経外科	17,600,000	補 厚生労働科学研究費補助金
症候性脳放射線壊死に対する核医学的診断とベバシズマブの静脈内投与による治療	宮武 伸一	脳神経外科	21,100,000	補 厚生労働科学研究費補助金
腫瘍選択的高LET高RBE粒子線治療による治療抵抗性グリオーマ幹細胞制圧の試み	宮武 伸一	脳神経外科	6,100,000	補 科学研究費補助金基盤研究(B)
脳放射線壊死の病態解析と治療への応用	宮武 伸一	脳神経外科	1,900,000	補 科学研究費補助金挑戦的萌芽研究
肩関節の生体力学的解析に基づく腱板断裂発症機構の解析	三幡 輝久	整形外科	1,400,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
GABA受容体による生殖細胞形成過程のメカニズムの解明	神原 清人	整形外科	1,400,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
軟骨細胞分化におけるヘパラン脱硫酸酵素の役割と変形性関節症への治療応用	大槻 周平	整形外科	1,200,000	補 科学研究費助成事業若手研究(B)
小児期非アルコール性脂肪肝炎における酸化ストレス評価法の検討	玉井 浩	一般小児科	1,000,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
母乳脂質濃度調節における核内受容体クロストーク機構の解明	瀧谷 公隆	一般小児科	2,100,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
新規レンチノイドによる急性前骨髄球性白血病細胞分化のエピジェネティクス機構の解明	井上 彰子	一般小児科	1,400,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
ダウン症候群における肺高血圧症危険因子の探索	岸 勘太	周産期センター	1,100,000	補 科学研究費助成事業若手研究(B)
胎内肺傷害後の重症新生児慢性肺疾患患児における細胞外酸化還元環境の破綻	荻原 享	周産期センター	600,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
早産児小脳障害と女性ホルモンの関与及び治療応用について	山岡 繁夫	発達小児科	500,000	補 科学研究費助成事業若手研究(B)
新生児慢性肺疾患の出生前発症誘導における酸化還元バランスの破綻について	長谷川 昌史	周産期センター	1,200,000	補 科学研究費助成事業若手研究(B)
小児起立性調節障害の新しいサブタイプの同定と、新治療法の効果に関する研究	田中英高	発達小児科	500,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
高分子ミセルを用いた卵巣癌の癌幹細胞に対する標的治療の開発	大道 正英	婦人科・腫瘍科	600,000	補 科学研究費補助金基挑戦的萌芽研究
難治性子宮内膜癌の治療戦略～高分子ミセルを用いたEMT制御を目指した治療の開発～	大道 正英	婦人科・腫瘍科	5,600,000	補 科学研究費補助金基盤研究(B)
癌幹細胞をターゲットとした子宮内膜癌の浸潤・転移制御と分子標的治療への応用	寺井 義人	婦人科・腫瘍科	900,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
婦人科悪性腫瘍に対する治療が及ぼす心血管リスクのサーベイランスと予防法確立	田辺 晃子	産科・内分泌科	1,300,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
卵巣明細胞腺癌に対するmTOR阻害剤によるEMT現象の制御とその応用	恒遠 啓示	婦人科・腫瘍科	1,600,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
難治性子宮内膜癌におけるEMTマーカーとしてのCD24の意義とEMT制御に向けて	田中 良道	婦人科・腫瘍科	1,800,000	補 科学研究費助成事業若手研究(B)
妊娠子宮の収縮に対するプロゲステロン受容体の役割～陣痛発来機序の解明にむけて～	藤田 太輔	産科・内分泌科	700,000	補 科学研究費助成事業若手研究(B)
黄斑疾患の発症機序における網膜幹細胞の関与	池田 恒彦	眼科	1,400,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
活性化グリア細胞を介した網膜傷害に対するスタチンの抑制効果の検討	奥 英弘	眼科	900,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
緑内障モデルにおけるP2X7受容体活性化と網膜神経節細胞障害の関連性	杉山 哲也	眼科	1,000,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
インスリンによる血管作動性因子を介した摘出網膜血管の反応性と加齢による影響	喜田 照代	眼科	500,000	補 科学研究費補助金 研究活動スタート支援
視神経傷害時のグリア瘢痕形成における分子機構	奥 英弘	眼科	413,000	補 大坂アイバンク
緑内障手術後の瘢痕癒着抑制に向けた薬剤徐放システムの構築	小 嶋 祥 太	眼科	2,500,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
頭頸部扁平上皮癌におけるプロスタグランジン受容体の解析とその臨床的意義	河 田 了	耳鼻咽喉科	1,000,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
顔面神経麻痺患者のウィルス特異的免疫能—ワクチン接種による発症予防の基礎的研究—	萩 森 伸 一	耳鼻咽喉科	4,100,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
スギ花粉に対する表皮綿免疫療法の開発について—TSLPの機能解析を中心に—	寺 田 哲 也	耳鼻咽喉科	600,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
音響障害モデル動物を用いた難聴治療法の開発—細胞生物学的視点よりのアプローチ—	乾 崇 樹	耳鼻咽喉科	3,200,000	補 科学研究費助成事業若手研究(B)
色素性乾皮症神経変性に対する治療法の探索～抗酸化という側面からの基礎的検討	森 脇 真 一	皮膚科	1,700,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
神経皮膚症候群に関する調査研究	森 脇 真 一	皮膚科	1,100,000	補 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
皮膚の遺伝関連性希少難治性疾患群の網羅的研究	森脇 真一	皮膚科	10,000,000	補 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
TregH ^α ク (CD28SA+幹細胞共培養) 免疫寛容+MF1導入:永久生着	東 治人	腎泌尿器外科	2,600,000	補 科学研究費補助金基盤研究(B)
革新的膀胱温存療法:「硼素膀胱局所動注+中性子照射」による癌細胞選択的破壊	東 治人	腎泌尿器外科	1,400,000	補 科学研究補助金(挑戦的萌芽研究)
アロ活性化マクロファージによるアロ移植細胞拒絶機構の解析	能見 勇人	腎泌尿器外科	700,000	補 科学研究費助成事業若手研究(B)
低分子ユビキチン様修飾因子の翻訳後修飾による進行性前立腺癌の治療	稲元 輝生	腎泌尿器外科	800,000	補 科学研究費助成事業若手研究(B)
骨盤腫瘍における標的体積内同時ブースト強度変調小線源治療の開発	吉田 謙	放射線科	3,800,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
オートラジオグラフィ・カルシウムイメージングによる脳・脊髄の痛みの可視化	宮崎 信一郎	麻酔科	1,950,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業 挑戦的萌芽研究
アクロメリン酸誘導体を用いた神経障害性疼痛治療薬の合成技術の開発と痛みの定量化	南 敏明	麻酔科	1,600,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
皮内で腫瘍細胞の増殖と拒絶反応を制御する免疫細胞と因子による新しい癌根治両方の開発	井畑 峰紀	形成外科	900,000	補 科学研究費助成事業若手研究(B)
運動障害者に対する低周波による非随意的筋収縮を用いた生活習慣病の予防に関する研究	佐浦 隆一	リハビリテーション科	1,600,000	補 科研費補助金(挑戦的萌芽研究)
脚部電気刺激と体重荷重軽減を併用する歩行能力改善用立ち上がり着座訓練装置	佐浦 隆一	リハビリテーション科	100,000	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
スを用いた維持期障害者に対する効果的な社会復帰支援に関する研究	佐浦 隆一	リハビリテーション科	200,000	補 厚生労働科学研究費補助金
がんのリハビリテーションガイドライン作成のためのシステム構築に関する研究	佐浦 隆一	リハビリテーション科	500,000	補 厚生労働科学研究費補助金
大腸癌におけるオキサリプラチンの末梢神経障害に対する漢方薬:牛車腎気丸の有用性に関する多施設共同二重盲検ランダム化比較検証試験(臨床第Ⅲ相試験)	後藤 昌弘	化学療法センター	800,000	補 厚生労働科学研究費補助金
切除不能進行・再発胃がんに対する個別化治療に関する研究	後藤 昌弘	化学療法センター	0	補 厚生労働科学研究費補助金

小計
15計
71

(注)1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発表者氏名	所 属 部 門
Adv Exp Med Biol.	Fulminant type 1 diabetes mellitus: a new class of type 1 diabetes.	Shibasaki S	糖尿病代謝・内分泌内科
Diabetol Int	Report of the Committee of the Japan Diabetes Society on the Research of Fulminant and Acute-onset Type 1 Diabetes Mellitus: New Diagnostic Criteria of Fulminant Type 1 Diabetes Mellitus (2012)	Imagawa A	糖尿病代謝・内分泌内科
Journal of Diabetes Investigation	Report of the Committee of the Japan Diabetes Society on the Research of Fulminant and Acute-onset Type 1 Diabetes Mellitus: New Diagnostic Criteria of Fulminant Type 1 Diabetes Mellitus (2012)	Imagawa A	糖尿病代謝・内分泌内科
Journal of Diabetes Investigation	Efficacy and safety of repaglinide vs nateglinide for treatment of Japanese patients with type 2 diabetes mellitus.	Hanafusa T	糖尿病代謝・内分泌内科
Intern Med.	Glycated Albumin to Glycated Hemoglobin Ratio is a Sensitive Indicator of Blood Glucose Variability in Patients with Fulminant Type 1 Diabetes.	Murase-Mishiba Y	糖尿病代謝・内分泌内科
Diabetol Int	A case of long-standing autoimmune type 1 diabetes with common variable immunodeficiency	Hanafusa T	糖尿病代謝・内分泌内科
J Diabetes Invest.	Class II HLA genotype in fulminant type 1 diabetes -a nationwide survey with reference to GAD antibodies.	Tsutsumi C	糖尿病代謝・内分泌内科
J Atheroscler Thromb.	Replication study of 15 recently published Loci for body fat distribution in the Japanese population.	Hanafusa T	糖尿病代謝・内分泌内科
J Hum Genet.	Association between type 2 diabetes genetic susceptibility loci and visceral and subcutaneous fat area as determined by computed tomography.	Hanafusa T	糖尿病代謝・内分泌内科
J Clin Endocrinol Metab.	High Frequency of HLA B62 in Fulminant Type 1 Diabetes with the Drug-Induced Hypersensitivity Syndrome	Hanafusa T	糖尿病代謝・内分泌内科
糖尿病	1型糖尿病調査研究委員会報告 - 劇症1型糖尿病の新しい診断基準 -	今川彰久 花房俊昭	糖尿病代謝・内分泌内科
糖尿病最新の治療	強化インスリン療法	中辻文彦 花房俊昭	糖尿病代謝・内分泌内科

雑 誌 名	題 名	発表者氏名	所 属 部 門
糖尿病	高齢者緩徐進行1型糖尿病(SPIDDM)患者におけるsubcutaneous insulin resistance が疑われた1例	寺前純吾 花房俊昭	糖尿病代謝・内 分泌内科
日本心療内科学会誌	2タイプの心身症における発症と経過に影響する心理社会的要因について：内分泌代謝疾患を例に	深尾篤嗣、高松順 太、花房俊昭	糖尿病代謝・内 分泌内科
日本診療内科学会誌	抑うつ合併バセドウ病患者におけるparoxetine 併用治療の試み	深尾篤嗣 花房俊昭	糖尿病代謝・内 分泌内科
日本臨床	1型糖尿病の疾患概念	花房俊昭	糖尿病代謝・内 分泌内科
臨床と研究	1型糖尿病の診療の進歩	花房俊昭	糖尿病代謝・内 分泌内科
USA , Chapter 7. pp 151-163 Nova publications 2013	The Spread Pattern and Survival in Sporadic ALS “ How Does ALS Progress or Propagate?” in 『ALS treatment and prognosis 』	Kimura F	神経内科
Int J Mol Sci 13(10) : 12213-23, 2012 (IF:2.598)	Interferon- β 1b Increases Th2 Response in Neuromyelitis Optica	Nakajima H	神経内科
Open Neurol J 6:51- 7, 2012	The Relation of Urinary 8-OHdG, A Marker of Oxidative Stress to DNA, and Clinical Outcomes for Ischemic Stroke	Nakajima H	神経内科
J Neuroimmunol 2013 5:256(1-2) :7-12.	Eicosapentaenoic acid (EPA) induces peroxisome proliferator-activated receptors and ameliorates experimental autoimmune encephalomyelitis	Unoda K	神経内科
Intern Med 51(13) :1759-63, 2012	Resolution of cranial MRI and SPECT abnormalities in a patient with Wilson's disease following oral zinc monotherapy	Ishida S	神経内科
Clin Neurol Neurosurg 114(6) :678-83, 2012	Clinicopathological features of centronuclear myopathy in Japanese populations harboring mutations in dynamin 2	Nakajima H	神経内科
Internal Medicine51:465- 469, 2012	Two Siblings Diagnosed to Have Transthyretin-related Familial Amyloid Cardiomyopathy Around the Same Time at Different Hospitals	Kimura F	神経内科
J Gastroenterol Hepatol.	Utility and problems of endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer in elderly patients.	Tokioka S	消化器内科
J Clin Biochem Nutr.	Strategies for peptic ulcer healing after 1 week proton pump inhibitor-based triple Helicobacter pylori eradication therapy in Japanese patients: differences of gastric ulcers and duodenal ulcers	Toshihisa Takeuchi	消化器内科

小計

雑 誌 名	題 名	発表者氏名	所 属 部 門
Dig Dis Sci	Simvastatin attenuates intestinal fibrosis independent of the anti-inflammatory effect by promoting fibroblast/myofibroblast apoptosis in the regeneration/healing process from TNBS-induced colitis	Abe Y	消化器内科
Digestion	Endoscopic and histopathological evaluation of collagenous colitis	Narabayashi K	消化器内科
J Clin Biochem Nutr.	An immunosuppressive subtype of neutrophils identified in patients with hepatocellular carcinoma.	Tsuda Y	消化器内科
Digestion.	Retrospective study as first-line chemotherapy combined anti-VEGF antibody with fluoropyrimidine for frail patients with unresectable or metastatic colorectal cancer.	Kii T	消化器内科
Intern Med	The efficacy of oral tacrolimus in patients with moderate/severe ulcerative colitis not receiving concomitant corticosteroid therapy.	Inoue T	消化器内科
潰瘍	低用量アスピリン起因性胃・小腸粘膜傷害に対するレバミピドの予防効果	梅垣英次	消化器内科
Bulletin of the Osaka Medical College	Study of Validity and Usefulness of ¹³ C-Trioctanoin Breath Test as Pancreatic Exocrine Function Test in Patients with Chronic Pancreatitis -Using Small Intestinal Lipase Activity as a Parameter-	Takii M	消化器内科
Leuk Lymphoma. 2012 Nov;53(11):2205-9.	Immunohistological diagnosis of plasma cell myeloma based on cytoplasmic kappa/lambda ratio of CD138-positive plasma cells.	Shoko Nakayama	血液内科
Hematology. 2012 Nov;17(6):317-20.	Immunohistological analysis in diagnosis of plasma cell myeloma based on cytoplasmic kappa/lambda ratio of CD38-positive plasma cells.	Shoko Nakayama	血液内科
Diagn Pathol. 2012 Sep 28;7:131.	An approach for diagnosing plasma cell myeloma by three-color flow cytometry based on kappa/lambda ratios of CD38-gated CD138(+) cells.	Shoko Nakayama	血液内科
Heart Vessels	Atrial natriuretic peptide exerts protective action against angiotensin II-induced cardiac remodeling by attenuating inflammation via endothelin-1/endothelin receptor A cascade	Shuichi Fujita	循環器内科
Internal Medicine	Familial hypercholesterolemia with multiple large tendinous xanthomas and advanced coronary artery atherosclerosis	Fumio Terasaki	循環器内科

小計

雑 誌 名	題 名	発表者氏名	所 属 部 門
Atherosclerosis	Angiotensin II promotes aortic valve thickening independent of elevated blood pressure I apolipoprotein-E deficient mice	Tomohiro Fujisaka	循環器内科
J Atheroscler Thromb	Comparison of the impact of changes in waist circumference and body mass index in relation to changes in serum gamma-glutamyltransferase levels	Aiko Sakamoto	循環器内科
Eur J Pharmacol	Reduction of renal lipid content and proteinuria by a PPAR- γ agonist in rat model of angiotensin II-induced hypertension	Aiko Sakamoto	循環器内科
Int J Cardiology	Pioglitazone ameliorates systolic and diastolic cardiac dysfunction in rat model of angiotensin II-induced hypertension	Aiko Sakamoto	循環器内科
J Renin Angiotensin Aldosterone Syst	Liver lipid content is reduced in rat given 7-day administration of angiotensin II	Nobuakzu Ishizaka	循環器内科
Lipids Health Dis	LXR agonist increases apoE secretion from HepG2 spheroid, together with an increased production of VLDL and apoE-rich large HDL	Makoto Kurano	循環器内科
Influenza Res Treat. 2012	Myocarditis Associated with influenza A H1N1pdm2009	Ukimura A, Satomi H, Ooi Y, Kanzaki Y	総合内科 循環器内科
Intern Med. 2012;51(21):3001-7	Temporal changes in echocardiographic findings in cardiac and non-cardiac sarcoidosis patients	Teramoto K, Kanzaki Y, Ishizaka N	循環器科 総合内科
EXPERIMENTAL AND THERAPEUTIC MEDICINE	Association between body mass index and breast cancer intrinsic subtypes in Japanese women	Kosei Kimura	一般・乳腺内分泌外科
Surgical Endoscopy	Clinical outcomes of laparoscopic surgery for advanced transverse and descending colon:cancer:a single-center experience	Masashi Yamamoto	消化器外科
Annals of Transplantation	A case of gastric cancer after living donor liver transplantation	Shimizu Tetsunosuke	消化器外科
Surgery Today	An internal hernia projecting through a mesenteric defect following laparoscopic-assisted partial resection of the transverse colon to the lesser omental cleft:report of a case	Shinsuke Masubuchi	消化器外科
Hepato-Gastroenterology	Clinicopathological and Operative Factors for Prognosis of Carcinoma of the Ampulla of Vater	Yoshihiro Inoue	消化器外科
Journal of gastrointestinal cancer	Prognostic Clinicopathological Factors After Curative Resection of Small Bowel Adenocarcinoma	Yoshihiro Inoue	消化器外科
Journal of Gastrointestinal Surgery	Resection Margin with Anatomic or Nonanatomic Hepatectomy for Liver Metastasis from Colorectal Cancer	Yoshihiro Inoue	消化器外科

雑 誌 名	題 名	発表者氏名	所 属 部 門
Hepato-Gastroenterology	Functional outcomes according to the size of the gastric remnant and type of reconstruction following open and laparoscopic proximal gastrectomy for gastric cancer	Eiji Nomura	消化器外科
大阪医科大学雑誌	最新の肝癌手術～系統的肝切除のための工夫～	内山 和久	消化器外科
Transplantation	Living-Donor Liver Transplantation From Donor With a Left-Sided Gallbladder With Portal Vein Anomaly	Tetsunosuke Shimizu	消化器外科
Bulletin of the Osaka Medical College	Apoptotic Speck Protein-Like (ASCL) is Hypermethylated in Hepatocellular Carcinoma and Chronic Liver Diseases	Kazutake Yokoyama	消化器外科
World Journal of Surgical oncology	Benefits of intracorporeal gastrointestinal anastomosis following laparoscopic distal gastrectomy	Sang-Woong Lee	消化器外科
Hepatology Reseach	Chymase inhibitor ameliorates hepatic steatosis and fibrosis on established non-alcoholic steatohepatitis in hamsters fed a methionine-and choline-deficient diet	Shinsuke Masubuchi	消化器外科
Surgery Today	Validation of online calculators to predict the non-sentinel lymph node status in sentinel lymph node-positive breast cancer patients	Satoru Tanakla	消化器外科
日本外科感染症学会雑誌	肝切除術における腹腔ドレーン留置が腹腔内感染に与える影響	井上 善博	消化器外科
The American Journal of Pathology	Absence of Nogo-B (Reticulon 4B) Facilitates Hepatic Stellate Cell Apoptosis and Diminishes Hepatic Fibrosis in Mice	Keitaro Tashiro	消化器外科
Diseases of the Colon & Rectum	Effect of Previous Abdominal Surgery on Outcomes Following Laparoscopic Colorectal Surgery	Masashi Yamamoto	消化器外科
大阪医科大学雑誌	虚血心筋への新規薬剤送達法の開発と心不全治療への応用	神吉 佐智子	心臓血管外科
Am J Sports Med.	Superior capsule reconstruction to restore superior stability in irreparable rotator cuff tears: a biomechanical cadaveric study.	Mihata T	整形外科科学教室
J Bone Joint Surg Am.	Effect of scapular orientation on shoulder internal impingement in a cadaveric model of the cocking phase of throwing.	Mihata T	整形外科科学教室
J Nutr Sci Vitaminol. 2013;59(1):64-8.	α -Tocopherol status and expression of α -tocopherol transfer protein in type 2 diabetic Goto-Kakizaki rats.	瀧谷公隆	小児科

小計

14

雑 誌 名	題 名	発表者氏名	所 属 部 門
Ann Nutr Metab. 2013;62(2):169-76.	Association of uric acid with obesity and endothelial dysfunction in children and early adolescents.	高谷竜三	小児科
J Clin Biochem Nutr. 2013 Jan;52(1):72-5.	Neutralization of complement component C5 ameliorates the development of dextran sulfate sodium (DSS)-colitis in mice.	青松友槻	小児科
Int J Mol Med. 2012 Nov;30(5):1152-8.	Tacrolimus (FK506) suppresses TNF- α -induced CCL2 (MCP-1) and CXCL10 (IP-10) expression via the inhibition of p38 MAP kinase activation in human colonic myofibroblasts.	青松友槻	小児科
Digestion. 2012;86(2):129-35.	Terminal restriction fragment length polymorphism analysis of the gut microbiota profiles of pediatric patients with inflammatory bowel disease.	青松友槻	小児科
Pediatr Res. 2012 Mar;71(3):267-73.	Antenatal exposure to Ureaplasma species exacerbates bronchopulmonary dysplasia synergistically with subsequent prolonged mechanical ventilation in preterm infants.	稲富 直	小児科
Clin Nephrol. 2012 Jan;77(1):49-54.	Clinical characteristics of obstructive uropathy associated with rotavirus gastroenteritis in Japan.	芦田 明	小児科
Pediatr Int. 2012 Dec;54(6):829-37.	GNB3 C825T polymorphism is associated with postural tachycardia syndrome in children.	田中英高	発達小児科
BioPsychoMed J 2012, 6:6 doi:10.1186/1751- 0759-6-6	Psychosomatic problems and countermeasures in Japanese children and adolescents	田中英高	発達小児科
自律神経 2012; 49: 203-205	小児起立性調節障害 最新の知見 小児起立性調節障害の新しいサブタイプに関する研究	田中英高	発達小児科
自律神経 2012; 49: 103-108	小児起立性調節障害患者(OD)に対する傾斜台を用いた起立負荷訓練(ティルト訓練)中の循環動態の変化 起立直後性低血圧における検討	田中英高	発達小児科
子どもの心とからだ 2012;21: 191-214	専門医向け小児起立性調節障害診断・治療ガイドライン2011(解説)	田中英高	発達小児科
子どもの心とからだ 2012;21: 215-218	小児起立性調節障害ガイドラインワーキンググループ 小児起立性調節障害診断・治療ガイドライン2005 追補版(2012年3月)	田中英高	発達小児科
子どもの心とからだ 2012;21: 219-222	小児起立性調節障害診断・治療ガイドラインに対する評価	田中英高	発達小児科
臨床眼科 2012;66(4):515-20.	長期変化が観察できた両眼性網膜海綿状血管腫の1例.	吉川大和	眼科
日眼会誌 2012;116(4):379-82.	クモ膜下出血患者におけるくも膜下出血量と眼内出血の関連.	坂本理之	眼科

雑 誌 名	題 名	発表者氏名	所 属 部 門
眼臨紀 2012;5(4):341-5.	網膜剥離に対する硝子体手術後晩期に発症した黄斑円孔の2例.	鈴木浩之	眼科
OCULAR SURGERY NEWS 2012;23(5):53-56.	SLT may further reduce IOP in eyes with primary open-angle glaucoma.	柴田真帆	眼科
IOVS 2012;53(7):3726-32.	Involvement of Glial Cells in the Autoregulation of Optic Nerve Head Blood Flow in Rabbits.	柴田真帆	眼科
Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 2012;250:557-63.	Effects of all-trans retinoic acid nanoparticles on corneal epithelial wound healing.	服部昌子	眼科
あたらしい眼科 2012;29(7):984-7.	緑内障・視神経乳頭血流の波形変化:LSFG-NAVI TMによる解析.	杉山哲也	眼科
あたらしい眼科 2012;29(6):844-7.	血圧と眼圧との間に相関がみられた血管新生緑内障の1例.	奥野高司	眼科
IOVS 2012;53(7):3490-500.	Blocking Endothelin-B Receptors Rescues Retinal Ganglion Cells from Optic Nerve Injury through Suppression of Neuroinflammation.	戸成匡宏	眼科
あたらしい眼科 2012;29(7):975-8.	抗緑内障配合点眼液の朝点眼と夜点眼による効果の比較.	石田 理	眼科
臨眼 2012;66(9):1363-7.	硝子体手術に至った濾過胞感染症の臨床的特徴.	植木麻理	眼科
眼臨紀 2012;5(8):753-9.	光干渉断層計で観察した黄斑コロボーマの2症例の検討.	寺井朋子	眼科
Neurochemistry International 2012;61:948-53.	The electrotonic architecture of the retinal microvasculature: Diabetes-induced alteration.	中泉敦子	眼科
眼科 2012;54(9):1127-38.	特集 眼科医に必要なCTとMRIの知識 3. MRIによる眼窩腫瘍の診断と治療.	今川幸宏	眼科
眼科 2012;54(11):1667-70.	ハードコンタクトレンズが3年間結膜嚢に残存した1例.	福居 萌	眼科
臨床眼科 2012;66(12):1665-68.	外傷性白内障が進行しなかった水晶体前嚢損傷の1例.	守屋豪志	眼科
神経眼科 2012;29(4):416-21.	眼瞼に疲労現象がみられた抗GQ1b抗体陽性の眼筋麻痺症例.	福居 萌	眼科
臨床眼科 2012;66(13):1757-60.	家族性滲出性硝子体網膜症に続発した網膜上膜に対し硝子体手術を施行した1例.	森山侑子	眼科
臨床眼科 2013;67(1):14-21.	EX-PRESSTM (エクスプレス) 挿入術.	杉山哲也	眼科
眼科手術 2013;26(1):117-20.	サーフロー外筒を用いた対面通糸法による虹彩離断整復.	濱島 紅	眼科

雑 誌 名	題 名	発表者氏名	所 属 部 門
Neuro-Ophthal 2013;37(1):24-30.	Immunoglobulin G4-positive Sclerosing Idiopathic Orbital Inflammation: New Neuro- ophthalmological Presentations.	奥 英弘	眼科
眼 臨 紀 2013;6(2):139- 44.	Down症候群患者の頭位と斜視・眼振・ 環軸椎亜脱臼の関係.	寺井朋子	眼科
Exp Eye Res 2013;108:10-5.	Comparison of CCD-equipped laser speckle flowgraphy with hydrogen gas clearance method in the measurement of optic nerve head microcirculation in rabbits.	杉山哲也	眼科
Neuro Letters 2013;534:237-41.	Involvement of P2X7 receptors in retinal ganglion cell death after optic nerve crush injury in rats.	家久来啓吾	眼科
Clin Ophthal 2013; 7:449-53. Clin Ophthal 2013; 7:449-53.	A case involving an Ahmed TM glaucoma valve transferred from the vitreous into the anterior chamber of the eye with a silicone oil tamponade for the treatment of neovascular glaucoma.	三木美智子	眼科
臨眼 2013;67(3):301-4.	不完全型網膜中心動脈閉塞症10例の検 討	栗本拓治	眼科
Acta Otolaryngol	The midline electroneurography method for facial palsy reflects total nerve degeneration.	Wada s et. al	耳鼻咽喉科
Otol Neurotol	Metastatic breast carcinoma to bilateral internal auditory canals.	Ichihara T et. al	耳鼻咽喉科
J Dermatol	Prenatal diagnosis of xeroderma pigmentosum group A in Japan	Moriwaki S	皮膚科
Exp Dermatol	Xeroderma pigmentosum complementation group G patient with a novel homozygous mutation and no neurological abnormalities	Moriwaki S	皮膚科
J Derm Sci	Decreased repair of singlet oxygen- induced DNA damage in xeroderma pigmentosum group A cells determined by plasmid host cell reactivation	Moriwaki S	皮膚科
Jpn Clin Med	Hereditary disorders with deficient repair of UV-induced DNA damage	Moriwaki S	皮膚科
Medical Molecular Morphology	Immunohistochemical analysis of O6- methylguanine-DNA methyltransferase in human skin tumor	Kokunai Y	皮膚科
Int J Urol	Neoadjuvant and adjuvant chemotherapy for locally advanced bladder carcinoma: Development of novel bladder preservation approach, Osaka Medical College regimen.	Haruhito Azuma	腎泌尿器外科

小計

雑 誌 名	題 名	発表者氏名	所 属 部 門
Int J Clin Oncol	Specific body mass index cut-off value in relation to survival of patients with upper urinary tract urothelial carcinomas.	Teruo Inamoto	腎泌尿器外科
Urology Journal	Predictors of Success for Stone Fragmentation and Stone-Free Rate After Extracorporeal Shockwave Lithotripsy in the Treatment of Upper Urinary Tract Stones.	Kiyoshi Takahara	腎泌尿器外科
J Oncol	Immunotherapy of genitourinary malignancies.	Teruo Inamoto	腎泌尿器外科
Urology Annals	Comparable effect with minimal morbidity of low-dose Tokyo 172 strain compared with regular dose Connaught strain as an intravesical bacillus Calmette - Gu é rin prophylaxis in nonmuscle invasive bladder cancer: Results of a randomized prospective comparison.	Teruo Inamoto	腎泌尿器外科
J Comput Assist Tomogr	Initial Experience With Adaptive Iterative Dose Reduction 3D to Reduce Radiation Dose in Computed Tomographic Urography.	Haruhito Azuma	腎泌尿器外科
The British Journal of Radiology、 85 : 378-382、 2012	The effect of adaptive iterative dose reduction on image quality in 320-detector row ct coronary angiography	Fuminari Tatsugami	放射線科
Breast Cancer. 2012	Appropriate evaluation of and risk factors for radiation dermatitis in breast cancer patients receiving hypofractionated whole-breast irradiation after breast-conserving surgery.	Nobuhiko Yoshikawa	放射線科
Journal of Computer Assisted Tomography , 37 (1) : 52-57, 2013	Initial Experience with Adaptive Iterative Dose Reduction 3D to Reduce Radiation Dose in CT Urography :	Hiroshi Juri	放射線科
J. Cardiothorac. Vasc. Anesth.	Clinical comparison of an echocardiograph-derived versus pulse counterderived cardiac output measurement in abdominal aortic aneurysm surgery.	Kusaka Y.	麻酔科
J. Clin. Anesth.	Perioperative risk factors for deep vein thrombosis after total hip arthroplasty or total knee arthroplasty.	Shimoyama Y.	麻酔科
Eur. J. Pharmacol.	The action site of the synthenic kainoid (2S, 3R, 4R)-3-carboxymethyl-4-(4-methylphenylthio) pyrrolidine-2-carboxylic acid (PSPA-4), an analogue of Japanese mushroom poison acromelic acid, for allodynia.	Miyazaki S.	麻酔科

小計

11

雑 誌 名	題 名	発表者氏名	所 属 部 門
J Plast Surg Hand Surg 2012;46:8-12	Anatomical study of medial and lateral sural cutaneous nerve: implications for innervated distally-based superficial sural artery flap	塗 隆志	形成外科
J Craniofac Surg 2012;23:241-246	Total auricular reconstruction after traumatic total amputation of the auricle	山田 朗	形成外科
J Immunol. 2012 May 25	Constitutive Plasmacytoid Dendritic Cell Migration to the Splenic White Pulp Is Cooperatively Regulated by CCR7- and CXCR4-Mediated Signaling.	大谷一弘	形成外科
Plast and Reconstr Surg 2012;25	Deepithelialized Oral Vestibular Flap (BootFlap) for Treatment of Free Border Deformities after Unilateral Cleft Lip Surgery	上田晃一	形成外科
日本マイクロサージャリー学会会誌 2012;25:182-187	整容的に重要な自由縁をもつ口唇のマイクロサージャリーによる機能の再建	塗 隆志	形成外科
日本美容外科学会会報 2012 34 (2) 75-79	自傷瘢痕の修正方法	原 舞	形成外科
KURRI Progress Report 2011 P272 2012/10	Hyaluronan-Conjugated Liposome as Carrier for Oral Squamous Cell Carcinoma in Boron Neutron Capture Therapy	Yuichi Ito	歯科口腔外科
Journal of Hard Tissue Biology 22[1](2013) P141-146 2013/3月	Cellulitis Extending from Submandibular to Temporal Region Originating from Bisphosphonate-related Osteonecrosis of the Mandible	Yasunori Ariyoshi	歯科口腔外科
Bulletin of Osaka Medical College 58(1,2) P27-33 2013/2月	Effect of Prosthetic Mandibular Advancement in Patients with Obstructive Sleep Apnea	Yoichiro Nakajima	歯科口腔外科
Clin. Oral Impl. Res. 23. P1314-1319 2012	Bone quality and quantity of the anterior maxillary trabecular bone in dental implants sites	T. Ueno	歯科口腔外科
Journal of Hard Tissue Biology 21. P337-340 2012	Application of multiplaner tomography and the Osrix imaging software for precise analysis of dens invaginatus in the maxillary third molar	T. Ueno	歯科口腔外科
Medicine and Pathology. On line 2012	Root-end resection for preservation of the causative molar in Garrè's osteomyelitis of the mandible: Journal of Oral and Maxillofacial Surgery	T. Ueno	歯科口腔外科
中部リハビリテーション雑誌	健常若年者における運動課題の継続時間および経過時間の提示の有無が呼吸循環応答に与える影響	生田 雄	リハビリテーション科
臨床理学療法研究	運動失調に対する軟性コルセットと弾性ストッキングの有効性 聴神経鞘腫により運動失調を呈した1症例を通して	常盤 紗恵子	リハビリテーション科

雑 誌 名	題 名	発表者氏名	所 属 部 門
自律神経	小児起立性調節障害患者(OD)に対する傾斜台を用いた起立負荷訓練(ティルト訓練)中の循環動態の変化 起立直後性低血圧における検討	高橋 紀代	リハビリテーション医学教室
J Trauma 2012;72(1):130-135	Hypothermia reduces resuscitation fluid volumes required to maintain blood pressure in a rat hemorrhagic shock model	K Nishi, A Takasu	救急医療部
Circ J. 2012;76(7):1639-45	Impact of early intravenous epinephrine administration on outcomes following out-of-hospital cardiac arrest.	Y Hayashi, M Nitta	救急医療部
Circulation. 2012 Dec 11;126(24):2834-43	Nationwide improvements in survival from out-of-hospital cardiac arrest in Japan	T Kitamura, M Nitta	救急医療部
Anticancer Res	Phase II study of Docetaxel, Cisplatin and 5-Fluorouracil (DCF) for Metastatic Esophageal Cancer (OGSG0403)	Tamura S, Takiuchi H, et al.	化学療法センター
British Journal of Cancer	Safety of UFT/LV and S-1 as adjuvant therapy for stage III colon cancer in phase III trial: ACTS-GC trial	Mochizuki I, Takiuchi H, et al.	化学療法センター
Gatric Cancer	Efficacy and safety of capecitabine plus cisplatin in Japanese patients with advanced or metastatic gastric cancer: subset analysis of the AVAGAST study and the ToGA study	Yamaguchi K, Takiuchi H, et al.	化学療法センター
Jpn J Clin Oncol	Multicenter Feasibility Study of Combination Therapy with Fluorouracil, Leucovorin and Paclitaxel (FLTAX) for Peritoneal Disseminated Gastric Cancer with Massive Ascites or Inadequate Oral Intake	Iwasa S, Goto M, et al.	化学療法センター
Cancer Science	First-line Sunitinib plus FOLFIRI in Japanese patients with unresectable/metastatic colorectal cancer: a phase II study	Tsuji Y, Yoshida M, et al.	化学療法センター
Gan to Kagaku Ryoho	Chemotherapy for gastrointestinal cancer in elderly patients	Nishitani H.	化学療法センター
大阪医大誌	看取りの時期のがん患者に医療用麻薬注射剤を用いる際の予後予測因子の検討	桑門 心	化学療法センター
Digestion	Retrospective study as first-line chemotherapy combined anti-VEGF antibody with fluoropyrimidine for frail patients with unresectable or metastatic colorectal cancer.	Yoshida M, et al.	化学療法センター

小計
12累計
151

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 黒岩 敏彦		
管理担当者氏名	診療情報管理室長	大坂 直文	病院薬剤部長 勝間田 敬弘
	中央放射線部長	鳴海 善文	広域医療連携センター長 黒岩 敏彦
	病院看護部長	小野 恵美子	医療安全推進部長 樋口 和秀
	医療安全対策室長	村尾 仁	感染対策室長 浮村 聡
	総務部長	門田 雅人	病院事務部長代理 木村 正士
	庶務一課長代理	小林 洋樹	庶務二課長代理 福田 謙二
	医事課長代理	岡田 直起	
	医薬品安全管理責任者	西原 雅美	
	医療機器安全管理責任者	岩崎 孝敏	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録		庶務一課 医事課 診療情報管理室 中央放射線部 病院薬剤部	年度別に分類している
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事課	
	高度の医療の実績	医事課 診療情報管理室	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	各診療科及び 病院薬剤部	
	高度の医療の研修の実績	各診療科	
	閲覧実績	医事課 診療情報管理室	
	紹介患者に対する医療提供の実績	各診療科	
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課及び 病院薬剤部	
項規 第則 第一 号に 条の 掲げ る十 一第 一制 の項 各保 号の 及び 第九 条の 二十 三第 一	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全対策室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全対策室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	広域医療連携センター	

(様式第12)

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	病院薬剤部 医療安全推進部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	病院薬剤部 医療安全推進部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	病院薬剤部 医療安全推進部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	病院薬剤部 医療安全推進部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全推進部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学室 医療安全推進部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学室
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学室

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び
紹介患者に対する医療提供の実績

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院事務部長代理 木村 正士
閲覧担当者氏名	広域医療連携センター 黒岩 敏彦、診療情報管理室 大坂 直文 病院事務部庶務一課 小林 洋樹
閲覧の求めに応じる場所	広域医療連携センター、診療情報管理室、庶務一課

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○ 紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	80.1 %	算定期間	平成24年4月1日 ~ 平成25年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	18,479人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	14,845人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,779人	
	D: 初診の患者の数	28,965人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項各号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1 安全管理に関する基本的考え方2 医療に係る安全管理のための委員会及び本院の組織に関する基本的事項3 医療安全に係る従業者への教育・研修に関する基本方針4 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針5 医療事故等発生時の対応に関する基本方針6 医療従事者と患者との間の情報共有に関する基本方針7 患者からの相談への対応に関する基本方針8 その他の医療安全推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1 安全の確保と安全の推進に係る検討課題について審議する2 医療安全調査委員会や医療改善委員会の報告を受け、検討内容及び改善策を検証する3 重大な問題が発生した場合は速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに従事者への周知を図る4 安全管理委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直す5 安全対策に関するマニュアル等の検討及び見直しをする6 安全に関する教育・研修及び啓発に関する活動内容について検討する7 その他、安全対策に関し活動の必要が生じた時は、関係各所と連携を図り適切に審議する	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 7 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○特別講演会（2回） 他大学講師 「医師・医療者のための日常診療からのコンフリクトマネジメント」 「真実説明・謝罪指針の実践」○事例検討会（5回） 院内講師 「転倒転落防止に関する医療改善委員会の取り組み」 「医薬品に関する最近の事例紹介/非麻酔医による鎮静鎮痛に関するガイドラインについて」 「児童虐待について医師のすべきこと～岸和田での治療体験から」 「ロールプレイで振り返る今年の重大事例」 「免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎対策ガイドライン」※○ 上記特別講演会・事例検討会については別途11回DVD上映会を開催した <p>※ 当該研修は、医師・看護師・薬剤師については必須研修とした（各診療科へDVD配布。視聴確認用紙の提出を義務付けた）</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療機関内における事故報告等の整備 ((有) ・ 無)
<p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1 当事者は、担当医（指導医）、RM、関係医師等へ連絡を行い、適切な対応を行ったうえ、速やかに報告する。2 医療安全対策室は報告事例から対応策を検討し、当該部門長およびRMと連携し対応する。3 分析、対処に当たった事例および対応中の事例は、安全管理委員会で報告し検討を重ね、事故の再発防止策についてRMを通じて医療従事者全員へ周知徹底を図る。4 安全管理委員会は医療安全対策室からの報告に基づき、分析結果の妥当性、リスクの重大性、リスク予測の可否、システム改善の必要性、事故の予防策、再発防止策について検討協議する。5 3b以上の事例および3aレベル以下であっても、患者家族の納得が得られない事例等については、医療安全推進部ミーティング、医療安全調査委員会にて今後の対応を検討する。6 安全管理委員会に報告後、必要に応じて医療改善委員会や事故対策会議等を開催する。	

(様式第13-2)

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (4 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<p>・ 所属職員： 専任(4)名 兼任(11)名</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1 「事故等」事例の発生頻度、事故の損傷規模、事故の質等を分析する2 安全対策についての問題点を把握し、改善策の企画立案やその実施状況を評価する3 医療の安全管理の体制確保および推進のための課題を検討するために、医療安全推進部ミーティングを行う4 安全対策に関するマニュアル等の具体的な検討及び見直しをする5 医療安全に係る職員への教育、研修を企画・実施する6 感染対策室と密接な連携をとり、院内感染防止に努める7 医薬品安全管理責任者と密接な連携をとり、医薬品の安全確保に努める8 医療機器安全管理責任者と密接な連携をとり、医療機器の安全使用の確保に努める	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に対応される体制の確保状況	有 ・ 無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 ・ 無										
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大阪医科大学附属病院（以下、「本院」という。）における院内感染対策に関する基本的な考え方 2. 院内感染対策のための委員会、その他本院の組織に関する基本的事項 3. 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者等に対する本指針の閲覧に関する基本方針 7. その他の本院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針 8. 本指針の改廃の手続きについて 											
② 院内感染のための委員会の開催状況	年 12 回										
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染に関する基本方針および院内感染対策実施に関する事項について審議する。 2. 院内感染発生時または発生が疑われる場合等の対応について審議する 3. 院内感染対策指針および院内感染対策に関する各マニュアル等の制定・改廃の承認について審議する 4. 委員会が報告を受けた感染対策室の業務内容について必要に応じて審議する 5. 委員会が感染対策室より報告を受けた院内感染に関する教育および啓発に関する活動内容について必要に応じて審議する 6. 小委員会の審議内容について必要に応じて審議する 											
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回										
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="193 1061 724 1122">演題</th> <th data-bbox="724 1061 1495 1122">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="193 1122 724 1256">標準予防策と 感染経路別予防策 (実際に起こった事例から学ぶ基本)</td> <td data-bbox="724 1122 1495 1256">関西医科大学内科学 第一講座診療教授の宮良高維先生をお招きし、実際にあった事例をもとに標準予防策や経路別予防策についてお話いただいた</td> </tr> <tr> <td data-bbox="193 1256 724 1368">いけてない感染対策 すばらしい感染対策</td> <td data-bbox="724 1256 1495 1368">院内で起こりがちな事例について感染対策ができず、失敗した例と、感染対策が徹底でき、成功した例をドラマ仕立てにした内容</td> </tr> <tr> <td data-bbox="193 1368 724 1503">がん治療に必須の 口腔管理の考え方 ～がん治療を口のトラブルで 中断・中止させないために～</td> <td data-bbox="724 1368 1495 1503">静岡県立静岡がんセンター 口腔外科部長の大田洋二郎先生をお招きし、がん治療とお口のトラブルについてお話いただいた</td> </tr> <tr> <td data-bbox="193 1503 724 1603">手術部位感染（SSI）の 現況と対策</td> <td data-bbox="724 1503 1495 1603">本院の消化器外科科長にSSIの現況と本院での対策についての内容</td> </tr> </tbody> </table>	演題	内容	標準予防策と 感染経路別予防策 (実際に起こった事例から学ぶ基本)	関西医科大学内科学 第一講座診療教授の宮良高維先生をお招きし、実際にあった事例をもとに標準予防策や経路別予防策についてお話いただいた	いけてない感染対策 すばらしい感染対策	院内で起こりがちな事例について感染対策ができず、失敗した例と、感染対策が徹底でき、成功した例をドラマ仕立てにした内容	がん治療に必須の 口腔管理の考え方 ～がん治療を口のトラブルで 中断・中止させないために～	静岡県立静岡がんセンター 口腔外科部長の大田洋二郎先生をお招きし、がん治療とお口のトラブルについてお話いただいた	手術部位感染（SSI）の 現況と対策	本院の消化器外科科長にSSIの現況と本院での対策についての内容	
演題	内容										
標準予防策と 感染経路別予防策 (実際に起こった事例から学ぶ基本)	関西医科大学内科学 第一講座診療教授の宮良高維先生をお招きし、実際にあった事例をもとに標準予防策や経路別予防策についてお話いただいた										
いけてない感染対策 すばらしい感染対策	院内で起こりがちな事例について感染対策ができず、失敗した例と、感染対策が徹底でき、成功した例をドラマ仕立てにした内容										
がん治療に必須の 口腔管理の考え方 ～がん治療を口のトラブルで 中断・中止させないために～	静岡県立静岡がんセンター 口腔外科部長の大田洋二郎先生をお招きし、がん治療とお口のトラブルについてお話いただいた										
手術部位感染（SSI）の 現況と対策	本院の消化器外科科長にSSIの現況と本院での対策についての内容										
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況											
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 ((有) ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 週1回、院内感染情報レポートを作成し上層部へ発生状況の報告を行う 2. 各種小委員会、担当者会議等、会議を通して発生状況の報告を行う 3. 定期的なサーベイランスおよび病棟巡回を通じて院内感染対策活動の推進と改善とともに、適正な抗菌薬の使用についての介入を実施 4. ICT-Newsを全部署に配布し、院内感染対策の推進を行う 											

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有 ・ 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 53 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険回避のために知っておくべき薬の知識(対象:看護師) ・血中濃度について(対象:看護師) ・ランマーク皮下注120mgについて(対象:薬剤師) ・糖尿病療養指導にかかせない薬剤師の知識(対象:薬剤師) ・医薬品に関する最近の事例紹介(持参薬・病棟薬剤業務など)(対象:全職種) ・決めたこと守るあなたが守られる(対象:各部門RM) 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 ((有) ・ 無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の採用・購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項 3. 病棟・各部門への医薬品の供給に関する事項 4. 患者に対する医薬品の使用(処方・調剤・服薬指導など)に関する事項 5. 医薬品情報の収集・管理・提供に関する事項 6. 他施設(病院・薬局等)との連携に関する事項 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ((有) ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 厚生労働省新着情報配信サービス・医薬品医療機器情報提供HPなどWEBによる情報収集、製薬メーカー・卸などから直接的に情報収集 2. 情報入手当日もしくは翌日の薬剤部内朝礼で情報伝達 3. 緊急性に応じて「薬剤部情報」「緊急薬剤部情報」を作成し院内各部署へ配布 4. 処方医師に確実に伝達が必要な場合には、処方医リストを作成しDI室から直接処方医、該当する診療科の薬事委員に連絡すると共に、病棟薬剤師が個別に情報伝達 5. 院内版薬剤部HPに新着情報掲載 	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有) ・ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 87 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1. 人工呼吸器の使用方法を内容とした研修 11機種（在宅呼吸器 5機種、院内呼吸器 6機種）延べ52回 在宅呼吸器については、入院時に持ち込まれるケースが多く、新規導入時研修で部署内を数回にわたっての研修実施となっている。 院内呼吸器については、新規導入時以外は、部署の要望に対して実施しているので、臨時開催となる。</p> <p>2. 除細動器の新規導入に際し、使用方法を内容とした研修 導入部署に対して実施</p> <p>3. CHDFの基本 ICU看護師に対して実施</p> <p>4. 放射線関係 ・ 使用説明 ・ 従事者講習</p> <p>5. その他 ・ 新採用時研修 ・ 新規導入時 ・ 他</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の作成 ((有) ・ 無) 年度単位で作成</p> <p>・ 保守点検の主な内容： 日常的に実施する点検、あるいは院内で実施する定期点検については、メーカーが使用する点検項目に準じて、当施設用にアレンジして作成し、それに沿って行っている。 定期点検の実施間隔や内容については、基本的にメーカーが推奨する方法で実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ((有) ・ 無) ネットによる情報収集をはじめ、ディーラー、メーカーから直接連絡をもらう。 消耗品関係の情報については、物流部が窓口となることが多いので、そこからも医療機器安全管理責任者へ情報が提供されている。</p> <p>その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>・ デモンストレーション連絡表の運用 オペレーターについてはデモンストレーション物品が非常に多い為、使用前に使用方法等の情報を事前に得られるよう、デモンストレーション連絡表を運用し、安全使用に努めている。</p> <p>・ 装置個々の電流値表記 電源への過負荷による停電などを未然に防ぐため、装置それぞれに管理番号と共に電流値を表記している。定格電流値が大きな物については赤で表示し、むやみにコンセントに接続しない様注意喚起を兼ね合わせている。</p> <p>・ コンセントプラグへの装置名タグ 生体監視モニターや生命維持に関連する装置のコンセントプラグに、装置の名称タグを付けて、誤って電源を抜かない様工夫を施している。</p>	